

自然文化誌研究会の紹介

2018.8.27

歴史

1974年に東京学芸大学自然文化誌研究会(学大探検部)創立、山村で民族植物学調査を開始、1975年に環境教育研究会、1988年に日本環境教育学会、および雑穀研究会の創立事務局を担当した。1984年から野外教育セミナーを、1988年から冒険学校を、1995年からタイとの環境学習キャンプ交流を始めた。この間、国内外で学術調査、冒険旅行を行ってきた。活動拠点は多摩・五日市町、秩父・大滝村から移動し、現在は甲斐・小菅村にある。東京都認証非営利活動法人。

活動施設

いつものキャンプ場 橋立集落
環境学習実践活動 冒険学校
ログビルダー講習会
INCHまつり
タイー日本自然クラブ

植物と人々の博物館 井狩集落

山村調査研究活動 森とむらの図書室(探検、環境、農林業、インド、タイ、欧米その他)
環境学習原論研究 山村調査資料、環境教育関連資料原本
民具・遺物などの展示
世界の栽培植物・雑穀標本、小菅村植物標本

雑穀栽培見本園 中組集落 日本で栽培されてきた雑穀など

相模原市藤野 雑穀栽培見本園、シードバンク、森とむらの図書室藤野分室
藤野倶楽部 雑穀街道の展示

印刷物 会誌ナマステ、研究報告民族植物学ノオト、その他プロジェクト報告書

連携

東京学芸大学・小菅村社会連携協定 サークルちえのわ／農学校
エコミュージアム日本村・ミューゼス研究会(トランジション小菅) トランジション・ジャパン
雑穀街道普及会 食農教育懇談会など

自然文化誌研究会(東京都日野市)：代表中込卓男、副代表中込貴芳(東京)・小川泰彦(埼玉)

事務局長:黒澤友彦(山梨県小菅村) npo-inch@wine.plala.or.jp

自然文化誌研究会公式HP: <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館(山梨県小菅村)：館長 木下善晴

植物と人々の博物館公式HP: <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行: 木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

雑穀・民族植物学関係個人HP、生き物の文明への黙示録: <http://www.milletimplic.net/>

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

藤野担当:宮本透

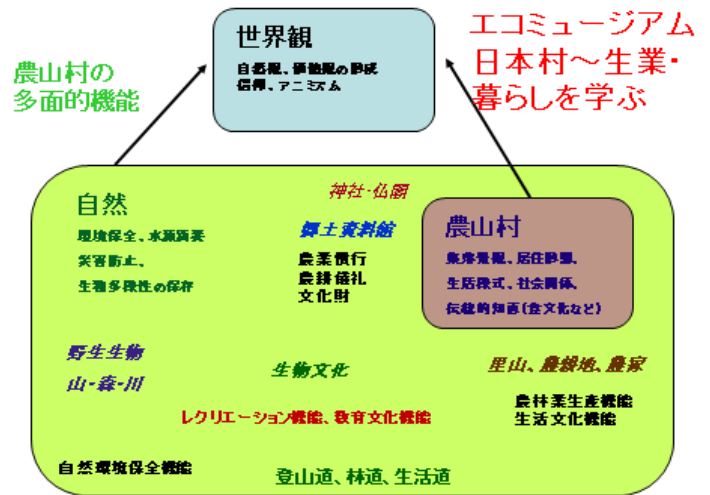
ミューゼス研究会／トランジション小菅(山梨県小菅村)：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

参考資料

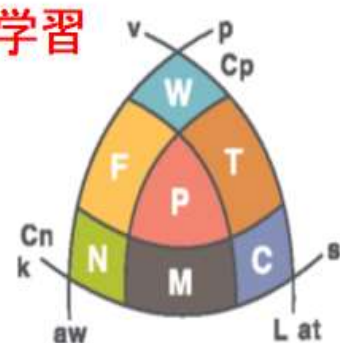
現在日本で栽培されている雑穀	
地理的起源地と学名	和名
アフリカ(サバンナ)	
<i>Sorghum bicolor</i>	モロコシ
<i>Eleusine coracana</i>	シコクビエ
1.中央アジア～北西インド	
<i>Setaria italica</i>	アワ
<i>Panicum miliaceum</i>	キビ
2.中国揚子江中部	
<i>Oryza sativa</i>	イネ
3.中国南西部	
<i>Fagopyrum esculentum</i>	
<i>Fagopyrum tartaricum</i>	ソバ
4.東南アジア	
<i>Coix lacryma-jobi</i> var. <i>ma-yuen</i>	ハトムギ
中南アメリカ	
<i>Amaranthus hypocondriacus</i>	センニンコク
<i>Amaranthus caudatus</i>	ヒモゲイトウ
<i>Chenopodium quinoa</i>	キヌア

現在日本の農耕文化の歴史的多層構造

連続的に、混合的な生物文化多様性への蓄積と衰退
複雑/単純、虚無・便利の超克(The nothing / The convenience)



ELF環境学習過程



- 図1: ELF環境学習プログラムの枠組み
- 基本学習プログラム 自然誌N、文化誌C、世界観W
 - 関連学習プログラム 生産M、思索T、感情F
 - 統合学習プログラム 遊戯P
 - 行動学習プログラム 地域L、協働Cp、保全Cnの各学習プログラム
 - 環境教育目標 関心aw、知識k、技能s、態度at、参加p、価値観v

自然と文化を学び、考える

学びはどこでも、いつでも。学校任せにしない

伝統地域⇒近代学校制度⇒現代国際化⇒未来文明

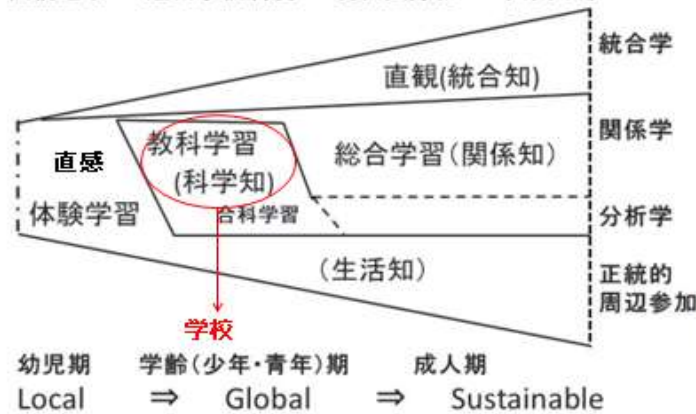


図1 人類の文明社会の複雑化に適応する生涯にわたる環境学習過程の構造(作業モデル6)。

